

論文

社会教育における音楽の役割

富田英也

まえがき

ある日曜日の朝、ストーブを囲んで食事をしていた時である。一風変わった音楽を耳にし、不思議な音色に魅せられて夢中でテレビに見入ったのです。それは、パソコン（パーソナル・コンピューター）に約1ヶ月で覚え込ませた自動ピアノが、オーケストラと一緒に演奏をしている「題名のない音楽会」という番組でした。音楽もここまで機械文明が進んできたのか、我々が多くの歳月をついやして練習してもなかなか弾くことのできない、あのベートーヴェンのピアノコンチェルト「皇帝」を、いとも簡単にあっさりと弾くさまに、すっかり感心させられてしまった。しかし、その音楽も私には、無味乾燥に感じたのである。機械を指揮しているのか、機械に指揮されているのか、オーケストラの団員も困惑していたに違いないと察しました。パソコンとか、マイコンとかいわれるこのコンピューターは、現代社会において過剰なまでに発達している。ここ10年来の世界の中でも日本は特に著しい発展をしているらしいが、毎日のマスコミの中でも話題の中心になっており、我々素人でも理解のできるころである。又、そういった機械文明における専門性も、これからの時代には必要であるにちがいない。しかし、それに伴ない、富める国の悩みや批判は大なるものがあり、物質的満足か、精神的満足かが論ぜられるであろう。わき道にそれたようであるが、音楽の分野においても、そのような時代背景の中で著しい発展をしている。一言に社会教育といっても拡域ではあるが、社会教育に音楽がどのような役割を果たしているのか、

これからの社会教育に音楽はどうあるべきなのか、一考察を述べたい。

便宜上次の四つの項目に分ける。

- 一．歴史的文化と音楽
- 二．社会生活と音楽
- 三．音楽の特性と役割
- 四．社会教育と音楽のまとめ

－栃木県社会教育における最近の音楽活動－

一．歴史的文化と音楽

音楽の経験をすることは、歴史的文化との融合である。それは、音楽がある時代の文化を反映したり、象徴したものであるし、ある地域やある民族の文化的遺産にほかならないからである。又、諸外国の人々によって築かれた多くの伝統音楽遺産が、私達に精神的な糧としてはかり知れない恩恵を受けている。ヨーロッパでは、すでにギリシアの時代から、音楽は美しいもの、美しいものは善として詩や劇と共に人格を高める上で非常に大切なものと考えられ、体育とともに青少年の教育の重要な一翼をになっていた。時代は実に、紀元前1200年頃である。中世の4～15世紀頃では、ゲルマン民族の西方移動によって各地に王国を建国し、封建社会を築いたのである。その領土には必ず教会が作られ、キリスト教の信仰をバックに権力が保持されていた。この時代はグレゴリオ聖歌といわれる単声音楽のロマネスク音楽や多声音楽のゴシック音楽等教会音楽時代、次にヒューマニズム運動が行なわれ、文化の復興を叫ばれた16～18世紀のルネサンス時代、音楽では多声音楽の黄金期等、どの時代においても文化を反映している。わが国の明治以後の音楽教育の変遷を見ても、自由民権思想に対して、絶対主義と結びつけて教えられた徳目唱歌、軍国主義教育と結びついた沢山の軍歌は、音楽教育を偏向的なものにしたが、それらは皆歴史的事実であり、時代の象徴といえる。

二．社会生活と音楽

人間は特定の文化や社会環境の中で育ちまわっているから、当然その文化や環境に影響される。一方、音楽も社会生活を基盤にして反映しているものである。したがって、社会生活を左右する政治や、特定の社会の繁栄を目ざして行なわれる教育などとも、深いつながりをもっているものである。音楽は人間の社会生活の中で生まれたものであるといわれる。社会生活の中で生まれたということは、その中に、音楽の性格のように表現と感受性の形を必要とする面があるといえるであろう。日本の民謡を考えてみても、生活の中で生まれた歌は沢山ある。田植歌、稲刈歌、舟曳歌、炭焼歌等仕事歌がある。現代では背景音楽(B・G・M)(注1)と呼ばれる音楽がある。しかし、その様な労働と音楽という分野の音楽も含まれるが、たとえば、作曲されたのは200年以上も前になるが、最近歳の瀬や歳の始めにあちこちの都市で行なわれ、なじみの深くなったベートーヴェンの第9交響曲「合唱」がある。青少年から、80才もの高齢者まで一度は歌ってみたいと願っている音楽、この「第9」等は、現代社会生活の中で生まれ育った音楽で、曲の内容からも人類の平和をテーマに時代の繁栄が表現されており、表現と感受性の形をもっているといえよう。

三．音楽の特性と役割

音楽の特性と役割としてまず五つに分類してみる。

- (イ) 音楽の表現と感受性
- (ロ) 感情と情操について
- (ハ) 音楽と精神衛生
- (ニ) 創造的経験としての音楽
- (ホ) 音楽とコミュニケーション

(注1) B.G.M……back ground music

(イ) 音楽の表現と感受性

我々が音楽に親しみ、その音楽の目的を考えるならば、音楽的能力を発見し、育てることといえる。音楽により、自己を表現することが出来るし、音楽の内面をどのように感じとれるかという力を養い育てることにある。つまり、表現力と感受性（鑑賞の能力）を育てることであり、音楽的能力の発見と育成によって、様々な音楽的経験を持つことができるのである。ある者は楽器を楽しみ、音楽会を聞き、また人に教え教えられ、豊かな感情、心のやすらぎ、解放感を味わうことができるのである。また様々の時代の文化に接する経験や、創造的な自己表現など、目的は、それぞれの能力の段階や、発見により、多くの人間的経験を深め、人間形成の助けとなる。

(ロ) 感情と情操について

音楽的経験から考えると、音楽の表現や感受性を通じ、豊かな感情、豊かな経験をすることは、音楽教育ならではの特性であり主な目的である。感情といっても、最も基本的、初歩的な感情であろう情動から、価値感を志向する情操的なものまで、無数の段階に分類されるであろう。高度の価値感となる感情は、単なる気持良く感じるムード的な感覚、快よい、また不快感というような、おそまつな感覚ではなくて、知性を伴っているという。波多野完治氏（注2）は、情操教育は感情だけでなく、知性の伸長によって認識の構造が進み、人間教育に役立っているのだと述べている。よくいわれる情操には、美的情操、道徳的情操、宗教的情操というように文化的感情が多い。そして芸術的教育の目的は、豊かな感情経験をすることにある。

(ハ) 音楽と精神衛生

社会の複雑化とともに精神的な疲労や悩みが増加する。この結果スポーツや趣味を始めようとするのは当然な行動である。音楽が心をいやし、疲れをなぐさめる働きをもっていることは精神衛生上好ましい。音楽が心身の健康

（注2）波多野完治……児童心理 第249号 金子書房

な面に役立つことは、余暇の善用につながっていく。まえがきでも述べたが、科学技術の発達等で、我々の仕事はますます機械化されて、将来は余暇がもっと多くなり、人々はやがて時間をもてあまし、余暇を芸術やスポーツなどの文化的で健康な活動に費やすかは、重要な課題であろう。

(二) 創造的経験としての音楽

(イ)の音楽の表現と感受性の項と同じような内容になる感もあるが、音楽を演奏し表現する上で、何らかのイメージを思考し、構想する。この作用が、自分の表現したい曲の追求に重要な事というまでもない。そしてその創造性が技術とあいまって豊かな音楽を造るのである。又音楽を経験することによって、美しさへのあこがれを豊かにすることができる。それは、音一つ出すことによって判断できる。美しい音を出そうとすること自体が創造性を生むことであり、芸術となるのである。

情景をよく表現された歌であまりにも有名な「夏の思い出」の作曲者、中田喜直氏は未だに尾瀬沼には行ったことがないそうである。

(ホ) 音楽とコミュニケーション

音楽は言葉では表現できない心に秘めた内的なものがあり、芸術とは、そのような内的なものを伝えるコミュニケーションとして考えることも出来る。大ぜいで、又、個人的に音楽を楽しむことや、美しさ、愛すること、苦しみをいっしょに味わい、評価することが出来ることは、協調性や社会性を育くみ、学校教育や社会教育となって現われることであり、音楽はまさにコミュニケーションといえる。

四. 社会教育と音楽のまとめ

一栃木県の社会教育における最近の音楽活動一

先ず、社会教育について考えると、大きな観点からみた場合、学校教育も含まれるが、ここではそれをあまり含めないで考えてみる。社会教育とは、

学校教育のように、国の指導要領に基づいて計画的に指導されるのではなく、世の中の共同生活から必要な事がらを自然に身につける（この場合、社会の風潮に流される）か、多くの場合自分から進んで受けることであり、積極的に価値を得ようとするのである。だから、学校教育のように上からおしつける面が多いことと趣を異にするのである。ようするに社会教育の中で、音楽を経験する会であれば、音楽を好きな人達が集まるのである。音楽においては、ヨーロッパの伝統的な音楽が、すでに世界共通の普遍的な音楽となり、一方では、民族音楽や大衆性をもった新しい傾向の音楽、歌謡、さらに現代音楽をつぎつぎに生み出している。又、それらは、社会のあらゆる階層に浸透し、情緒的な面で大きな影響を及ぼしている。これらの事柄を歴史的にそして体系的に分析し展望することは、きわめて大切な課題である。私は、一般的に音楽本来の意味は、音によって感情を表現することであって、この行為は、抽象的であり、美とか愛を探究し、人間形成を目的とした観念的なものであると思う。又、音楽はその時代の文化を反映し、象徴したものであり、情操教育であることを認識し音楽を経験することにあると考える。これらが、社会教育における音楽の役割である。すなわち、社会教育＝人間形成である。

次に、地方社会教育の文化活動の一端として、栃木県の音楽活動特に、一般部門におけるここ20年程の合唱の資料を参考の為にあげてみるが、資料不足の点は補い推測してもらいたい。

資料1 S38 第18回県芸術祭中央音楽祭より

〈合唱〉

- | | |
|----------------|-----------------------------|
| 1. 真岡小PTA合唱団 | からまつ・故郷をはなる歌 |
| 2. 鹿沼市民合唱団 | 花・霜のあした |
| 3. 大田原市民合唱団 | こわれたクラリネット・アピニョンの橋の上で |
| 4. 栃木少年合唱団 | アルプスにばらの咲く頃は |
| 5. さつきコーラスグループ | こおろぎの唄・潮音・アヴェマリア |
| 6. ドン合唱団 | ダンスソング・やがて終りの日が |
| 7. 東武百貨店コーラス部 | Ave Verum Corpus ・シューベルト小夜曲 |

- | | |
|---------------|---------------------|
| 8. 宇都宮少年少女合唱隊 | みのむし・ブラームスの子守唄 |
| 9. 烏山町婦人会 | やさしき愛の歌・赤とんぼ |
| 10. 西那須野うたう会 | 祝えこの日・わらの中の七面鳥 |
| 11. 水橋中同窓会合唱団 | 家路・故郷をはなる歌 |
| 12. 合唱団かぶとむし | はるかな友に・赤とんぼ・オレーグ公の歌 |
| 13. 宇都宮合唱団 | 動物園 |
| 14. 宇都宮少年合唱団 | いずみのほとり・モルダウ |

資料2 S 39 第19回県芸術祭中央音楽祭より

〈合唱〉 第5部（制限時間7分）

ー18. 00

- | | |
|------------------|-------------------------|
| 55. グリーンペースクラブ | ラールゴ（ヘンデル） |
| 56. 西那須野うたう会 | 旅のおもい・夕やけこやけ・アムール河のさざなみ |
| 57. 馬頭町婦人会 | 小さいぐみの木・母さんの歌 |
| 58. 水橋中同窓会コーラス部 | よさこい節・アンニーローリー |
| 59. 小川町婦人会 | 花あざみの歌 |
| 60. 南高根沢青年団コーラス部 | トロイカ・わかれ |
| 61. 小山合唱団 | 秋の女・風 |
| 62. 塩谷町音楽愛好会 | 夏の思い出・浦のあけくれ |

ー19. 00

- | | |
|-----------------|-------------------------|
| 63. ドン合唱合唱団 | 富士山肆・富士山第拾陸 |
| 64. 宇都宮少年合唱団 | 野口雨情の詩抜すい |
| 65. 宇都宮少年少女合唱団 | ウイーンの森の物語 |
| 66. 合唱団かぶとむし | Lets' my prople go. その他 |
| 67. さつきコーラスグループ | 白さぎ・流浪の民 |
| 68. 宇都宮合唱団 | 秋の女・海の若者 |

資料3 S 52 第14回栃木県合唱コンクールより

（一般参加7団体）

1. ドン合唱団（男声 21人）

選択曲 春宵感懐	大中 恩作曲
自由曲 智恵子抄巻末のうた六首	高村光太郎作詞 清水 修作曲

2. 合唱団あき（混声 22人）
 選択曲 Domine Jesu Christe R・Schumann作曲
 自由曲 組曲「旅より」旅のよろこび・かごにのって 山之井 慎作詞 佐藤 真作曲
3. 宇都宮合唱団（混声 27人）
 選択曲 Trotz J・S・Bach作曲
 自由曲 Ave Maria トーマス・ルイス作曲
4. K・M・C合唱団（混声 28人）
 選択曲 優しき歌序の歌 萩原 英彦作曲
 自由曲 組曲「動物園」よりカンガルー・駝鳥 宮沢 章二作詞 福井 文彦作曲
5. コーラスパープル（混声 28人）
 選択曲 優しき歌序の歌 萩原 英彦作曲
 自由曲 組曲「心の四季」より風が 吉野 弘作詞 高田 三郎作曲
6. 混声合唱団コールミリオネア（混声 40人）
 選択曲 Domine Jesu Christe J・S・Bach作曲
 自由曲 組曲「海の詩」より内なる魚シーラカンス 岩間 芳樹作詞 広瀬 量平作曲
7. 栃木合唱団（混声 40人）
 選択曲 Domine Jesu Christe J・S・Bache作曲
 自由曲 組曲「風のうた」より冬の風 中村千栄子作詞 大中 恩作曲

資料4 S56 第18回栃木県合唱コンクールより

職場（1団体）	
1. 東芝那須工場合唱部（男声・18人） 選択曲 吟遊詩人 自由曲 Kyrie Eleison・Gloria in Excelsis	R. Schumann作曲 W. Byrd作曲
一般（10団体）	
1. コロ・ポリフォニコ（混声・25人） 選択曲 この世の人みな生命みじかく 自由曲 女たちよ、私はほこることができる	H. Purcell作曲 P. V. Lot作曲
2. 合唱団あき（混声・28人） 選択曲 オレンジはかおり 自由曲 「ハ長調ミサ」より「Agnusbei」	P. Mascagni作曲 L. Beethoven作曲
3. 宇都宮合唱団（混声・33人） 選択曲 この世の人みな生命みじかく 自由曲 「ロ短調ミサ」より「Gloria」	H. Purcell作曲 J. S. Bach作曲
4. 栃木合唱団（混声・33人） 選択曲 みちのく 自由曲 Dies sanctificatus	田中利光作曲 H. Purcell作曲
5. コール・ミリオネア（混声・35人） 選択曲 この世の人みな生命みじかく 自由曲 Anglican Canticle, Jubilate Deo	H. Purcell作曲 J. Blow作曲
6. コールしらゆり（女声・20人） 選択曲 Osalutaris Hostia 自由曲 「選かな歩み」より「櫛」	F. Liszt作曲 高田三郎作曲
7. ミモザ合唱団（女声・48人） 選択曲 うしろから誰かに 自由曲 「美しい訣れの朝」より「赤い風船」	柳沢 浩作曲 中田喜直作曲
8. 自治医科大学男声合唱団（男声・36人） 選択曲 吟遊詩人 自由曲 「月光とピエロ」より「月夜」「秋のピエロ」	R. Schumann作曲 清水 脩作曲
9. ドン合唱団（男声・36人） 選択曲 吟遊詩人 自由曲 智恵子抄巻末六首	R. Schumann作曲 清水 脩作曲
10. 宇都宮メンネルコール（男声・40人） 選択曲 巡礼の合唱 自由曲 「海の構図」より「神話の巨人」	指揮 佐藤和男 R. Wagner作曲 中田喜直作曲

資料 5 S57 第36回栃木県芸術祭音楽祭より

順	種目	団体名	作詞者	作曲者	曲名
1	A 女声	二宮町合唱団	山上 路夫 リ・ジョン・ウォン	プートマン 西山 英二	思い出のグリングラス お母さん元気ですか
2	A 女声	昭和小PTAコーラス部	深尾須磨子 関根 栄一	中田 喜直 湯山 昭	忘れなぐさ 葡萄の歌
3	A 女声	小貝コーラス		宮崎 一章 内藤 法美	島原の子守歌 誰もいない海
4	A 混声	喜連川町合唱団	川路 柳江 野上 彰	コンバース 高田 三郎	星の世界 秋をよぶうた
5	A 女声	豊郷南小PTAコーラス	北山 修 里見 義	端田 宣彦 ピショップ	風 ホーム・スイート・ホーム
6	A 女声	東小PTAコーラス	山上 路夫 北原 白秋	村井 邦彦 山田 耕作 岡本 仁	翼をください 砂山
7	A 女声	栃木少年合唱団 マザーコーラス	高橋 信夫 浜口庫之助	マクダウェル 浜口庫之助 菊川道夫編曲	野いばらに寄す ばらが咲いた
8	A 女声	田沼小PTAコーラス	吉岡 浩 高野 辰之	河村 利夫 メンデルスゾーン	真夜中のギター おおひばり
9	A 女声	中川中PTAコーラス		リチャード ロジャース ジルヘル	エーデルワイス ローレライ
10	A 女声	安沢小PTAコーラス	荒木とよひさ 薩摩 忠	荒木とよひさ 小林 秀雄	四季の歌 まっかな秋
11	A 女声	宇大附小PTAコーラス	宮地 廓慧	大中 恩	組曲「月と良寛」より 月のうさぎ
12	A 女声	共英小PTAコーラス	島崎 藤村 千家 元磨	平井康三郎 橋本 国彦	潮音 川
13	A 混声	真岡市民合唱団	斉田 喬 江間 章子	岡本 敏明 福井 文彦	雪の合唱 河

順	種目	団体名	作詞者	作曲者	曲名
			川本優子訳	G・ベコー	シャンテ
14A	混声	細谷小PTAコーラス	永 六輔	岩河三郎編曲 中村 八大 福田準一編曲	遠くへ行きたい
15A	児童	真岡少年少女合唱団		財津 和夫 木原やすし編曲	切手のないおくりもの
16A	女声	峰小PTAコーラス	宇野 通芳	J・S・バッハ G・フォーレ	カンタータ78 小川
17A	女声	セントラル・エコー	北原 白秋	大中 大中恩	訣れ
18A	女声	明俣小PTAコーラス	中村千栄子	山田 耕作	からたちの花
19B	女声	いずみコーラス	ハインリッヒハイネ	岩河 三郎	おとめ座
20B	混声	西那須野混声合唱団	関根 栄一	メンデルスゾーン	わが心の想ひ
21B	女声	あかねうたの会	湯山 昭		葡萄の歌
22B	混声	コールミリオネア	日本 古謡	平井康三郎	ずいずいずっころぼし
23B	混声	合唱団バオバブ	サトウハチロウ	末広 恭雄	秋の子
24B	女声	コーラス卯の花	更科 源蔵	広瀬 量平	組曲「海鳥の詩」より
25B	女声	コールとちの葉	サトウハチロウ	中田 喜直	もんしろう蝶々のゆうびんやさん
			斉藤 四郎	内田 元	奥の細道
				尾上 和彦	組曲「京都の七つのうた」 より、ヘントコナ
			田中 清水	佐藤 真	組曲「旅」より、かごにのって 行こうふたたび
			永 六輔	中村 八大	こんにちは赤ちゃん
			堀内 敬三	フリース	子守歌
			中村千栄子	溝上日出夫	女声合唱のためのエッセイ 「古寺慕情」より ♪秋篠の里のあなた♪ ♪墓参り♪

順	種目	団体名	作詞名	作曲者	曲名
26	B 女声	高根沢フリージア コーラス	津川 圭一 千家 元麿	ロシア民謡 橋本 国彦	赤いサラファン 川
27	B 女声	リトルコール静	三木 露風 サトウハチロー 藤田 敏雄	山田 耕作 北村協一編曲 中田 喜直 いずみたく 上村澄春編曲	赤とんぼ 夕方のおかあさん 希望
28	B 女声	くろいそフラウエン コール	保富 康午 高野喜久雄	湯山 昭 高田 三郎	十月のプロムード ナ 「水のいのち」より 海よ
29	B 女声	フラワーコーラス	三越左千夫	矢田部 宏	春の岬に来て
30	B 混声	コーラスパープル	佐藤 春夫	大中 恩	海の若者 秋の女よ
31	B 混声	合唱団あき	高野喜久雄	高田 三郎	組曲「内なる遠さ」より ①合掌一さる ②燃えるもの一蜘蛛
32	B 女声	石橋すみれコーラス	中村千栄子	岩河 三郎	組曲「嫁ぐ日に(なみだ)」 七つの子
33	B 男声	ドン合唱団	藤井泰一郎 斉藤 信夫 浜口庫之助	グラナハム 海沼 実 福永陽一郎編曲 浜口庫之助 慶応ワグネルソ サエティー編曲	いざ起て戦人よ 里の秋 口庫之助 涙君さよなら
34	B 女声	やまゆりコーラス	土屋 花情 吉野 弘	八州 秀明 高田 三郎	さくら貝の歌 風が
35	C 独唱	渡 辺 昭子		ル ッ ツ イ	アベ・マリア
36	C 独唱	内 田 ヨシ子		ガスタリーニ	忘れさせたまえ

資料 6 S 58 第 1 回おかあさんコーラス栃木県大会より

青蛙〔西原老連〕 (33) 宇都宮市

寒い朝

佐伯 孝夫作詞 大野 三光編曲

ひなまつり

大野 三光編曲

あかねうたの会 (18) 宇都宮市

奥の細道

斉藤 四郎作詞 内田 元作曲

明保小 P T A コーラス (19) 宇都宮市

わが心の想い

H・ハイネ作詞 マンデルスゾーン作曲

葡萄の歌

関根 栄一作詞 湯山 昭作曲

足利三中ママコーラス (20) 足利市

「おかあさん」より

サト-ハチロー作詞 平井哲三郎作曲

若い芽

矢田部誠子作詞 矢田部 宏作曲

厚崎中 P T A コーラス (20) 黒磯市

お江戸日本橋

日本民謡 稗 輝男作曲

赤い靴

野口 雨情作詞 五月女 博編曲

石橋すみれコーラス (18) 石橋町

なみだ

中村千栄子作詞 岩河 三郎作曲

七つの子

野口 雨情作詞 本居 長世作曲

宇大付属小 P T A コーラス (23) 宇都宮市

「月と良寛」より月うさぎ

宮地 廊慧作詞 大中 恩作曲

エイコーンコーラス (23) 栃木市

おかあさんはおかあさんは

サト-ハチロー作詞 平井哲三郎作曲

弱くて強くて不思議なおかあさん

サト-ハチロー作詞 平井哲三郎作曲

そばの花

加藤 省吾作詞 平井康三郎作曲

小山合唱団 (45) 小山市

「虹」より「雪」

大和ミエ子作詞 磯部 俣作曲

共英小 P T A コーラス (16) 黒磯市

潮音

島崎 藤村作詞 平井康三郎作曲

川

千家 元麿作詞 橋本 国彦作曲

くろいそフラウエンコール (22) 黒磯市

恋は水色	越部 信義編曲
モア	越部 信義編曲
国分寺コーラス (22) 国分寺町	
バラが咲いた	浜口倉之助作詞 浜口倉之助作曲
無縁坂	さだまさし作詞 さだまさし作曲
コーラス卯の花 (25) 氏家町	
わたしの雨	宮沢 章二作詞 田中 利光作曲
「旅」よりなぎさ歩めば	山之井 慎作詞 佐藤 真作曲
コールアザレア (25) 佐野市	
美しく青きドナウ	堀内 敬三訳詞 ヨハン・シュトラウス作曲
コール・カメラア (25) 栃木市	
野いばらに寄す	高橋 信夫作詞 マクダウエル作曲
「ドクトルジバコ」より「ララのテーマ」	大六 和元編曲
コールしらゆり (20) 宇都宮市	
美しく青きドナウ	堀内 敬三訳詞 ヨハン・シュトラウス作曲
コールとちの葉 (30) 宇都宮市	
時無草	室生 犀生作詞 磯部 俣作曲
武蔵野を歩く歌	杉 紀彦作詞 磯部 俣作曲
ニュー富士見ヶ丘 (20) 宇都宮市	
浦のあけくれ	吉丸 一昌作詞 Mazzinghi作曲
瀬戸の花嫁	山上 路夫作詞 平尾 昌晃作曲
フラワーコーラス (20) 壬生町	
おかあさん	辻本 耀二作詞 大中 忠作曲
春の岬に来て	三越左千夫作詞 矢田部 宏作曲
舞ヶ丘合唱団 (35) 真岡市	
春の歌	喜志 邦三作詞 内田 元作曲
すみれの花咲くころ	白井 鉄造作詞 F.Doelle 作曲
峰小学校PTAコーラス部 (20) 宇都宮市	
アペ・ベルム・コルプス	夏目 利江訳詞 モーツァルト作曲
野葡萄	大木 惇夫作詞 清水 脩作曲

ミモザ合唱団 (50) 宇都宮市

秋の通信

勝 承夫作詞 森脇 憲三作曲

「四季によせて」より「秋の女よ」

佐藤 春夫作詞 塚谷 晃弘作曲

リトルコール静 (20) 宇都宮市

ためいき

佐藤 春夫作詞 平井哲三郎作曲

コール滝の原 (24) 宇都宮市

美しい季節

中村 千尾作詞 中田 喜直作曲

秋の日ぐれ

近藤 吐愁作詞 平井康三郎作曲

昭和小P T A コーラス (19) 宇都宮市

「愛の風船」より「ことばってすきなもの」

中村千栄子作詞 大中 恩作曲

葡萄の歌

関根 栄一作詞 湯山 昭作曲

女声コーラスふる里 (27) 河内町

砂山

北原 白秋作詞 山田 耕筰作曲

「心の四季」より「風が」

吉野 弘作詞 高田 三郎作曲

すみれの会 (30) 壬生町

海

小森 香子作詞 大西 進作曲

鶴

B・ガムザトフ作詞 Y・リップenko作曲

高根沢フリージアコーラス (21) 高根沢町

早春賦

吉丸 一昌作詞 中田 章作曲

マイ・ウエイ

大六 和元編曲

栃木少女合唱団マザーコーラス (25) 栃木市

初恋

石川 啄木作詞 名取 吾郎編曲

ます

妹尾 幸湯作詞 シューベルト作曲

以上の資料 6 における、おかあさんコーラスは、前年度までの栃木県芸術祭音楽祭より独立した形をとっている。

次に参考の為に、宇都宮市における合唱団体をのせてみる。

資料 7 S 46 第25回宇都宮河内地区芸術祭音楽祭より

5部 (一般) 合唱 制限時間10分

No.	団体(学校)名	種目	作曲(詩)者名	演奏曲目
1	灯 唱 会	女声	緒園 涼子 緒園 涼子 Wタウベルト Fメンデルスゾーン	子守歌 緑の森よ
2	群 団 あ ひ る	混声	日本民謡 野上彰一 ス페인民謡 野上 彰一 ドボルザーク	美の子もり歌 ふたりの子 ども 家路
3	宇都宮市勤労青少年ホ ームコーラスグループ	混声	中村 雨紅 滝田 和夫 草川 信 チューリング地方民謡	夕焼け小焼け 君を去りて
4	さ つ き コ ー ラ ス	女声	持田 勝穂 森脇 憲三 武鹿 悦子 草川 啓	白のロマンス こおろぎの唄
5	宇都宮市立東小学校内 母親コーラス	女声	文部省歌 大野まどか 京嶋 信	もみじ 春はこっそり
6	宇都宮青少年少女合唱隊	混声	結城ふじを 中田 喜直	石ころの歌
7	コ ー ル フ ロ ー	女声	江面 幸子 小山 章三	女声合唱組曲 秋はしゃむのように
8	宇都宮センター合唱団	混声	関忠 亮訳 シベリウス	フィンランディア
9	ドン合唱団さつきコーラス	混声	大伴 家持	やまとには(国見の歌)
10	宇都宮キングダコール	混声	宮地 廓慧 大中 恩	月と良寛 1.手まり 2.忘れん坊 3.月のうさぎ
11	コ ー ル ミ リ オ ネ ア	混声	パレストリーナ	ミサプレビス
12	宇 都 宮 合 唱 団	混声	高野 喜雄 高田 三郎	わたしの願い より
招	ド ン 合 唱 団	男声	北原 白秋 多田 武彦	柳河風俗詩より

資料 8 S 50 第29回宇都宮河内地区芸術祭音楽祭より

(一般) 合唱 制限時間10分

No.	団体名	種目	作詩者	作曲者	演奏曲目
1	富士見小PTAコーラス部	女声	サトウハチロー 深尾須磨子	中田 喜直	小さい秋見つけた 忘れな草
2	合唱団あき	混声		トマス・ライス ヴィクトリア	サンクタ・マリア
3	宇都宮センター合唱団	混声	五木民謡	小林秀雄編曲 いずみたく	五木の子守歌 君の祖国を
4	宇都宮アカデミー合唱団	混声	山之井 慎 田中 清夫	佐藤 真	混声合唱のための組曲「旅」より 4. なぎさ歩ゆめば 7. 行こうふたたび
5	K・M・C	混声	江間 章子	福井 文彦	組曲「空、道、河」
6	ミモザ合唱団	女声	勝 承夫 京嶋 信 高田 敏子	森脇 憲三 京嶋 信 薬師神武夫	秋の通信 そよ風とすみれ 夕風
7	男声合唱団かぶとむし	男声	スコットランド民謡	グ ソ ー	ゴローリア グ ロッホローモンド
8	宇都宮キングコール	少年少女	京嶋 信 岡田さい子	京嶋 信 渡部 節保	あこがれの歌 小さな青空
9	宇都宮合唱団	混声	伊藤 海彦	大中 恩	「島よ」より抜萃
10	ドン合唱団	男声	伊藤 整 堀口 大学	多田 武彦	組曲「雨」より I 雨の来る前 IV 11月にふる雨
11	ザ・スウィングス・フォー	男声			Moon River ・ Only you Peace in the Vally It's a Sin to tell a Lie
12	灯 唱 会	女声	深尾須磨子 吉野 弘詩	中田 喜直 高田 三郎	忘れな草 「心の四季」より 風が
13	女声合唱団さつき	女声	Moritz 高野喜久雄	F. Gellert Hauptmann 高田 三郎	Gebet 祈り 女声合唱組曲「水のいのち」より海よ
14	コール・ミリオネア	混声	スズキヘキ	岡崎 光治	合唱組曲「幻の祭り」よりネブタ祭
15	宇都宮少年少女合唱団	少年少女	佐藤 真理	中田 喜直	マリちゃんの歩いた夢

資料 9 S 56 第 2 回宇都宮市民芸術祭 市民合唱コンクールより

一般 B の部

1. 宇都宮センター合唱団(混声コーラス)
 岩谷 時子作詞 ラララで歌おう
 いずみたく作曲
 関西合唱団訳詞
 ジョン・デンバー作曲 Take Me Country Road
 西 良三郎編曲
2. ミモザ合唱団(女声コーラス)
 阪田 寛夫作詞 組曲「美しい訣れの朝」
 中田 喜直作曲 ① “赤い風船”
3. 合唱団あき(混声コーラス)
 ベートーヴェン作曲 「ミサ曲ハ長調 Op 86」より
 “Agnus Dei”
4. ドン合唱団(男声コーラス)
 高村光太郎作詞 智恵子抄巻末のうた六首
 清水 脩作曲
5. 宇都宮児童合唱団
 中林ミエ作詩作曲 赤い花, 白い花
 寺島 尚彦編曲
 三善晃作晃作曲 あの日から
6. 宇都宮合唱団(混声コーラス)
 岡本 敏明作詞 狩人われら
 Fフーバー作曲
 岡本 敏明作詞 栄光あれ
 Fジルヒャー作曲
7. 合唱団パオパブ(混声コーラス)
 田中 清光作詞 組曲「旅より」
 山之井 慎作詩 “旅立つ日”
 佐藤 真作曲 “旅のよろこび”
 “なぎさ歩めば”

一般 A (PTA コーラス) の部

1. 石井小 P T A コーラス(女声コーラス)
 わらべうた ほたるこい
 小倉 朗作曲
 土屋 花情作詩 さくら貝の歌
 八洲 秀章作曲
2. セントラル・エコー(中塚小 P T A) (女声コーラス)
 山本 櫻子作詩 窓をひらいた花
 京嶋 信作曲
3. 城山東小 P T A コーラス(女声コーラス)
 関根 栄作詩 夕なぎの海
 寺嶋 尚彦作曲
4. 細谷小 P T A コーラス(混声コーラス)
 モーツァルト作曲 悲しみのシンフォニー
 武田 全弘作詩 オリーブの首飾り
 C モルガン作曲
5. 峰小 P T A コーラス(女声コーラス)
 夏目 利江作詩 アヴェ・ヴェルム・コルプス
 モーツァルト作曲
 大木 惇夫作詩 野葡萄
 清水 脩作曲
6. 緑が丘小 P T A コーラス(混声コーラス)
 壺田 花子作詩 ねむの花
 中田 喜直作曲
 井上・長沢 作詩
 川尻 泉のほとり
 ノヴィコフ作曲

以上の資料から、合唱部門だけをみても異常な発展をしている事がわかる。この原因となったものを考えてみると、戦後日本の文明も発達し、高度成長の時期に入り、栃木県においても、昭和30年後半になると、物資も豊富になり、時間的余裕もできてくる。青年達はスポーツに、文化面に積極的に参加することになった。家庭の主婦は色々な雑用や暇をもてあまし、勤労者は毎日のストレスや悩みを発散させる為、趣味や教養を身につける傾向になった。又、各専門分野のすぐれた指導者も多くなり、レベルも向上した。資料1、5でもわかるように、合唱の人口も増加し、この分野の作曲家も増え、次々と程度の高い作品や、人間味のある豊かな感情表現の新しい作品を世に出し、合唱音楽は、需要と供給の関係になったのである。又、これにともない各都市では、色々な催しを消化するべく大きなホールが新築されている。上記の中でも特記することは、資料6にある「青蛙」という団体で、実に、平均年齢67才であり、他にも中高年層の合唱団体が増加してきたことである。これは、今後の社会問題のあり方を考えさせられる現象である。

この他、文化的な活動としては、栃木県教育委員会文化課で、地域の総合的文化の向上を目的として、年50回の小学校、中学校向けに音楽活動を含める活動を供給している。38の市町村では39の文化協会があり、39,000名の会員がおり、独自の文化会が企画されている。その他、県の交響楽団を始め、地方の交響楽団も増え活動をしている。又、一般企業では、ヤマハ、カワイの数回の催しと、最近では、民間でも、会員制の定期的な音楽会を開いている等意欲的である。

おわりに、現在の社会情勢を思えば、世界は不況にあるといわれるが、裕福な国もあり、飢えで苦しんでいる国もある。日本の国においても、一見経済的に裕福であるようであるが、しかしその影には、求人問題、高齢社会の問題、教育偏重の問題等複雑化している。音楽面においても、どこの家にもピアノが普及するようになり、地方都市でも頻繁に音楽会が行なわれあらゆる分野の音楽があふれている。そんな情勢の中で今後増々さかんになる音楽のあり方を考えてみると、精神的にも人間的にも創造性に富んだ余裕

のある音楽の経験を願うしだいである。

(とみた ひでや, 幼児教育, ソルフェージュ)

参 考 文 献

- | | | |
|----------------------------------|--------------|--------|
| 木 村 信 之 | 「創造性と音楽教育」 | 音楽之友社 |
| 木 村 信 之 | 「音楽の基礎指導」 | 音楽之友社 |
| 小 泉 文 夫 | 「音楽の根源にあるもの」 | 青土社 |
| A. Silbermann | | |
| 城 戸 朋 子訳 | 「音楽はいずこへ」 | 紀伊國屋書店 |
| 守 田 正 義 | 「音楽のうけとりかた」 | 光の友社 |
| J. L. Mursell | | |
| M. Glenn | 「音楽教育心理学」 | 音楽之友社 |
| 供 田 武嘉津訳 | | |
| J. L. Mursell | | |
| 美 田 節 子訳 | 「音楽教育心理学」 | 音楽之友社 |
| 浜 野 政 雄 | 「音楽教育学概説」 | 音楽之友社 |
| 櫻林 仁代表 村井靖児, 林 庸二, 中村 均, 泉山中三 共著 | | |
| | 「音楽療法入門」 | 芸術現代社 |